

有権者教育は「お笑い」で

——全国の高校、大学へ出張授業の23歳

政治や選挙の大切さを「お笑い」で若者に伝えよう。そんな思いで、全国の大学や高校に出向いて出張授業を続けている大学院生のお笑い芸人がある。

「たかまつなな」さん23歳。慶應大学と東京大学の大学院で言語学を研究しながら、お笑い芸人として自ら出張授業で全国の高校や大学を回る。2016年4月には出張授業などを行う株式会社を立ち上げた。

破格にシンプルで分かりやすい、たかまつさんによる若者に対する有権者教育を取材した。

(JCLU理事・弁護士：北神英典)

ベルばら風のイラスト

2017年3月22日、たかまつさんは、お笑い芸人仲間とともに山梨県甲府市の県立甲府西高校を訪ねた。間もなく有権者の仲間入りをする1年生と2年生450人に「政治」の授業をするためである。

たかまつさんは、家にあるたった1個のプリンを家族のだれが食べるかをどのように決めるのかという例を挙げて「みなさんの家では、どうやって物事を決めていきますか」と切り出した。その上で「実は、国が物事を決めることも、家で物事を決めることも同じです」と続けた。

たかまつさんの語りの中で、正面のスクリーンには、工夫を凝らした「ベルサイユのばら」風のユニークなイラストが次々と映し出されていった。

核心に絞ってシンプルに伝える

たかまつさんの授業の特徴は、核心部分に絞ってシンプルに伝えるという独自のスタイルにある。

過去から現在に至る政治体制の移り変わりを、「力の強い者が実力で物事を決める『無政府状態』」「江戸時代の将軍のような権力者の掟によって物事を決める『独裁体制』」「賛成と反対の数によって決める『民主主義』」の3つに分類。その上で、米国で黒人のオバマ大統領が誕生した例を用いて「人々の共感が集まればトップに立てる」というのが現在の「民主主義」社会と説明する。

たかまつさんの説明には、政治に関心のない高校生の胸にもストーンと落ちるように理解してもらうための工夫があふれる。

もちろん選挙＝「数」によって選ばれた代表者による「民主主義」政治が、常に正しい結果をもたらすわけではない。



2017/3/22 甲府西高校で出張授業をするたかまつななさん（正面壇上手前、向かって一番左）



選挙を通じて政権を握ったナチスのイラスト

授業でも、たかまつさんは、ナチスドイツの強制収容所の写真も使って、ヒトラー率いるナチスが選挙を通じて政権を握ったことやユダヤ人大量虐殺の悲劇を挙げて、民主主義の危うさを指摘することも忘れなかった。

選挙に行かない若者

政治に対して若い世代が無関心であると言われて久しい。

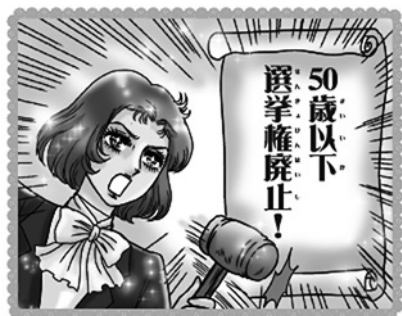
選挙権が「18歳以上」に引き下げられて初めての国政選挙となった2016年7月の参議院選挙では、

10代の投票率は46.78%であったものの、20代は35.60%、30代は44.24%。いずれの世代も選挙全体の投票率54.70%を下回った。

高齢化が進む日本では、60歳以上の人口が占める割合が上昇し、若い世代の人口比は低下傾向にある。加えて若い人は選挙にも行かない。若者向けの政策は後回しにされ、世代間格差は開く一方になりかねない。

しかし「お笑いという手法を使えば、政治に参加する意義は、若い人にもっと伝わるはずだ」とたかまつさんは言う。参議院選挙の前にたかまつさんが出張授業に出向いた高校の一つからは「生徒の80%以上が投票に行ったようだ」との報告が寄せられた。

逆転投票シミュレーション



高齢者の高投票率の結果、若年層に不利な政策が成立する不条理を訴えるイラスト

1時間ほどの出張授業の中で、生徒に「選挙」の大切さを実感してもらおう工夫は、「逆転投票シミュレーション」という参加型のゲームにも見て取れた。

これは、「18歳女子高生」「24歳会社員」「45歳主婦」「65歳会社社長」「80歳おばあちゃん」という5人のキャラクターを選び、選挙に関心のない「50歳以下」の人から選挙権を奪い取るという架空の政策の当否を議論し、投票してもらおうというものである。

「18歳女子高生」「24歳会社員」「45歳主婦」役をする3人は、選挙権を奪う政策に反対し、逆に「65歳会社社長」「80歳おばあちゃん」の2人が「若い人はどうせ選挙に来ない」「若い人に政治は分からない」と賛成した。

「選挙の大切さ、真剣に考えた」

5人の議論では、3対2で政策は否定された。

しかしこれに「20代から40代まで」と「50代以上」の有権者の人口比や実際の投票率を掛け合わせると、なんと「50歳以下」の人の選挙権を奪うという政策が選挙で実現してしまうという結末に。人口が少なく投票にも行かない40代までの反対票

は、人口比が高く投票をする人の割合の高い50代以上の賛成票に逆転されてしまったためであった。



逆転投票シミュレーションのイラスト

逆転投票シミュレーションは、選挙に行かないことが自分たちの権利や生活に大きなマイナスになりかねないという事実を、リアリティー

をもって生徒たちに突き付けたようすであった。

出張授業後のアンケートには「選挙について学ぶ機会はたくさんありましたが、こんなに詳しくわかりやすく学ぶことができ、よい経験になりました」「なぜ選挙が大切なのか、18歳になる私たちに何ができ、何をすべきなのか、笑いながらも真剣に考えることができました」などと書かれていた。

「政治の絵本」

選挙権年齢が18歳に引き下げられると決まったとき、たかまつさんは、若い人向けにどんな有権者教育の本が出てくるかと期待をしていたという。しかし出てきた本は「みな難しすぎて、期待外れだった」と話す。

そんなたかまつさんが、「政治に無関心な高校生や大学生にも民主主義や選挙の大切さが伝わる本を」という熱い思いで書き上げたのが、2017年3月に出版した「政治の絵本—現役東大生のお笑い芸人が偏差値44の高校の投票率を84%にした授業」(弘文堂)だ。

ほぼすべてのページにお笑い風のイラストを用いるなど、徹底した分かりやすさと目線の低さで練り上げた、「伝わる」授業のノウハウが詰まっている。



「政治の絵本」